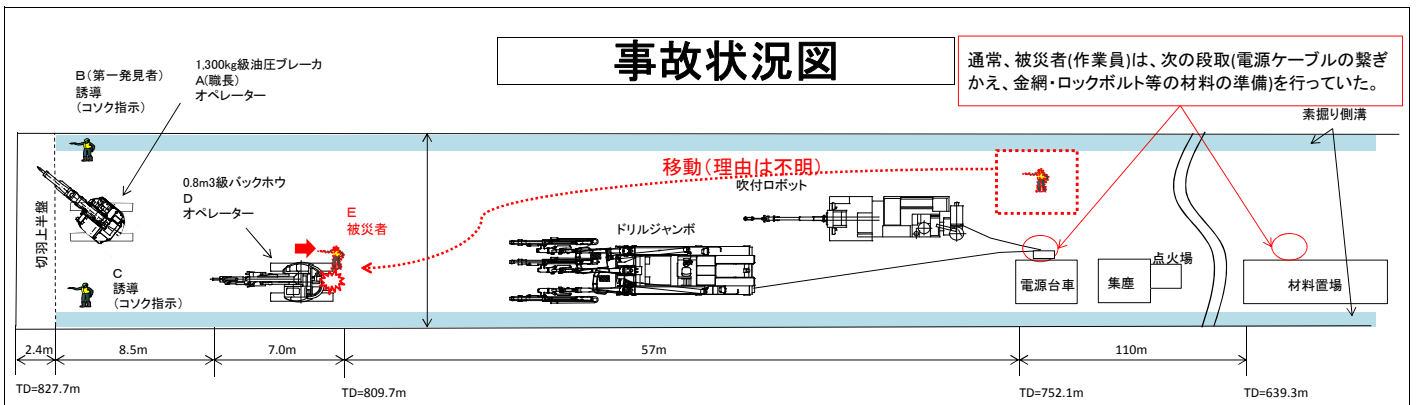
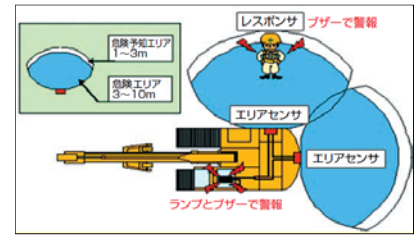
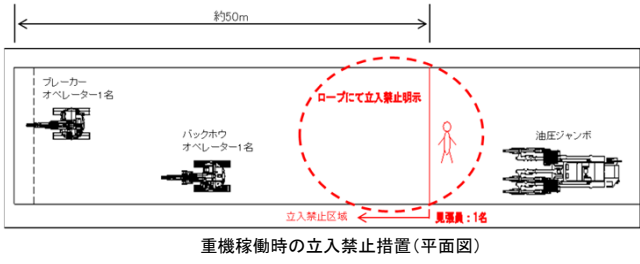


事故種類	労働災害	発生日時	平成27年12月15日 2時45分	事故当事者	1次下請け
事故区分	建設機械	年齢性別	29歳 男性	職種	トンネル掘削工
被災程度(全治)	死亡: 死因(骨盤開放骨折による出血性ショック死)				
事故概要	ズリ出し完了後、バックホウにて切羽左側の素掘り側溝を整備する作業中、バックホウが1m程度坑口側へ後退した際、バックホウの右後方にいた被災者(1名)に接触。被災者は、下半身がバックホウの下敷きになった。救急車を要請し、病院へ搬入し処置したが、10:14に死亡した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者は、事故発生箇所約57m後方にて準備作業を行う役割であったが、いつの間にかバックホウの背後にいた。</li> <li>バックホウオペレーターは側溝整備を行いながら後進しており、背後に作業員(被災者)がいるとは思っていなかった。</li> </ul>				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>重機稼働時の立入禁止措置と見張員を配置する。</li> <li>重機に制止を求める場合、作業半径外(重機より10m以上)からレーザーを使用し、重機オペレーターに合図を送り、重機の動作が止まったことを確認してから、重機に近寄る。</li> <li>接触防止センサーを設置し、作業員が重機に接近した際に、オペレーターに知らせる機器を採用する。</li> <li>バックモニターを設置し、後方監視カメラにてオペレーターの死角となる部分を補い、後方の確認ができるようにする。</li> <li>各作業ごとの役割分担を明確化するため、重機作業計画書を改訂する。</li> <li>作業前打ち合わせ時の体調チェックを、職長ヒアリングとともに赤外線体温計、アルコールチェッカー、血圧計を使用して確実化する。</li> <li>安全教育および接触防止啓発用ステッカーによる教育内容の啓発、1人KYカードの携帯と実施内容の記録を行う。</li> </ul>				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/16臨時の安全対策連絡会を開催し、類似工事における再発防止に向けた注意喚起を行った。</li> <li>1/14臨時の安全対策連絡会を開催し、各工事の安全対策の取り組みについて意見交換と1人KY活動の事例紹介を行った。</li> </ul>				



### 改善策



- 1人KY**  
1人1つが作業者の命を予知し、危険ポイントの発生を未然に行う。自問自答ポイント
1. 燃えないか?
  2. 落ちないか?
  3. 切れないか?
  4. 倒れないか?
  5. はさまれないか?
  6. 巻き込まれないか?
  7. 上から物が落ちてこないか?
  8. 肌着ちや出水はないか?
  9. 体調は良いか?
  10. 役割を把握しているか?
- 建設現場 大井トシム
- 1人KYカード